

令和8年度 貝毒プランクトン出現状況（4月10日現在）

男鹿半島戸賀湾で貝毒の原因とされるプランクトン（渦鞭毛藻 *Dinophysis*属）の出現状況を調査しています（4月から8月にかけて計12回）。

今期2回目の4月10日の調査では、その他の*Dinophysis*属として、*D. infundibula*と*D. rotundata*、*D. rudgei*が出現しました。

イガイの下痢性貝毒検査は6月以降実施予定です。

調査月日	水深	水温 (°C)	貝毒プランクトン出現量 (細胞数/L)			下痢性貝毒検査 (イガイ)	
			<i>D. fortii</i>	<i>D. acuminata</i>	その他 <i>Dinophysis</i> 属	検体採取日	試験結果 (mgOA当量/kg)
①	4/2	5 m	9.9	3	21	9	
		10m	10.0	12	18	18	
		20m	9.9	3	10	16	
②	4/10	5 m	10.9	32	35	11	
		10m	10.8	60	7	53	
		20m	10.6	70	7	18	
③		5 m					
		10m					
		20m					
④		5 m					
		10m					
		20m					
⑤		5 m					
		10m					
		20m					
⑥		5 m					
		10m					
		20m					
⑦		5 m					
		10m					
		20m					
⑧		5 m					
		10m					
		20m					
⑨		5 m					
		10m					
		20m					
⑩		5 m					
		10m					
		20m					
⑪		5 m					
		10m					
		20m					
⑫		5 m					
		10m					
		20m					

*貝毒プランクトンの警戒値は*Dinophysis fortii*については200細胞/L（海水1リットルあたり200細胞）以上とされていません（安本 1993）

*下痢性貝毒は、0.16mgOA当量/kgを超えると出荷自主規制するように定められています。